

12.  $^{201}\text{Tl}$  による心筋血流予備能測定を試み

高田 竹人 足永 武  
 (新日鉄室蘭病院・内)  
 木戸 実 若松 裕幸  
 菊地 大  
 (同・放)  
 古館 正従  
 (北大・放)

$^{201}\text{Tl}$  初期心臓内通過時の記録と後期心筋内摂取時の記録より Indicator Fractionation Technique にしたがって、石井らは心筋血流量/心拍出量比を算出している(核医学 13; 787, 1976)。われわれも本法の基礎的検討を行なうとともに、虚血性心疾患患者で運動負荷  $^{201}\text{Tl}$  心筋シンチグラムによる虚血部描出に加えて、その前後での心筋血流量/心拍出量比の変動を求めた。

患者4例中2例で負荷後、心電図上虚血性変化を示した部位と一致して一過性の欠損像が得られた。心筋血流量/心拍出量比は4例中1例上昇、他の3例は不変ないし減少を示した。定量化にあたり、心室壁後面の変化が過少評価される可能性や  $\text{Tl}$  の全身投与量、バックグラウンドの定量に少なからぬ問題があり、また個体差間の影響も無視できぬなどの点を指摘した。しかしながら同一症例での運動負荷前後の変動は心筋血流供給予備能をみる一指標となり得る可能性はあると思われた。

## 13. 心筋梗塞における心筋シンチグラムの臨床的応用

藤屋 秀一 平沢 邦彦  
 横田 裕光 館田 邦彦  
 柴田 淳一  
 (旭川市立病院・内)  
 高橋 明史 瀬川 謙司  
 (同・放)

われわれは、心筋梗塞33名で、心筋シンチグラムを行い、臨床的に検討した。使用装置は、Aloka RVE 204 シンチカメラ、および高分解能

15,000 ホールコリメーター、核種は  $^{99\text{m}}\text{Tc-PYP}$  と  $\text{Tl-201}$  を使った。 $^{99\text{m}}\text{Tc-PYP}$  シンチは、急性心筋梗塞29名、のべ32例で、3病日より69病日の間に施行した。10病日以内の22例では21例が陽性だったが、13病日以降では、10例中4例のみ陽性で、うち3例は心室瘤が疑われた。 $\text{Tl-201}$  シンチは8病日より81病日の25例で行い、全例で  $\text{Tl}$  集積欠損部がみられたが、心電図 Q波で決定した梗塞部位を含み、さらに広く虚血範囲が描出されたものが多かった。また、 $^{99\text{m}}\text{Tc-PYP}$  と  $\text{Tl-201}$  の両シンチを併用すれば、新鮮梗塞部、虚血部、陳旧性梗塞部等の部位診断や、それらの範囲の直接的把握ができ、さらにこれらの反復施行により、急性心筋梗塞の臨床経過の観察もある程度可能であり、心筋シンチグラムは心筋梗塞において、臨床的に有用であると考えられた。

14. 当院における  $^{201}\text{Tl}$  心筋シンチグラムの経験

足永 武 高田 竹人  
 (新日鉄室蘭病院・内)  
 木戸 実 若松 裕幸  
 菊地 大  
 (同・放)  
 丹呉 寿男 近藤 明文  
 (札幌医大・2内)  
 古館 正従  
 (北大・放)

過去2年間、当院にて施行した各種心疾患32例に対する  $^{201}\text{Tl-Cl}$  心筋シンチグラムの成績を総括し報告した。

1. 心筋梗塞は新鮮および陳旧性を合せ12例に施行し、大部分の症例で心電図所見とほぼ一致した梗塞部の Cold Scan 像が得られた。陳旧梗塞例では新鮮例に比し欠損像が不明瞭となる傾向があり側副循環回復の影響がうかがわれた。本法が診断および予後判定上、心電図検査に優ると思われた純粋後壁梗塞、広範前壁梗塞の各一症例を供覧した。

2. 特発性心筋症9例では、UCG上中隔/左室